



MMWIN[®] みんなのみやぎネット[®]

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために
Vol. 116

救急疾患患者発生時におけるMMWINの活用法

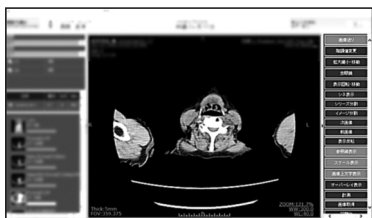
東北大学病院 心臓血管外科様では、循環器救急疾患患者発生に際し、早期に患者情報、特に検査画像を共有する手段としてMMWINをご利用いただいております。MMWINを利用する以前の課題や、救急時にMMWINを利用するメリット、術後における病診連携の在り方などについて准教授の熊谷 紀一郎先生にお話を伺いました。

救急時の病病連携

当科では県内全域の医療機関からコンサルトを受けていますが、口頭説明のみで患者さんの状態を把握しなければならないケースもあり、患者さんの受入れ前に検査画像を確認できればと、以前から画像が共有できるような病院間のネットワークの必要性を感じておりました。特に大動脈解離は、症例により治療方法が異なることが多く、専門的な判断が必要である上、時間的猶予が短いという問題があります。

StanfordA型と診断された場合、患者さんが運ばれて手術台に上がるまでの時間が重要です。このことは当科が中心となり東北6県の全大学病院を含む心臓外科13施設とともに行った大動脈解離のレジストリであるTRADの結果が証明しております。MMWINを利用し、事前に患者さんの検査画像を確認できれば、搬送中に緊急手術に必要な準備のほとんど全てを行うことができます。一方で、StanfordA型という診断自体が誤っていたり、緊急手術を必要としない症例の場合もあります。先日、夜間帯にStanfordA型の触れ込みで搬送依頼がありましたが、MMWINでCT画像を確認したところ、明らかにStanfordB型であったため、不必要な緊急搬送と手術準備を避けることができた事例がありました。また、外傷性大動脈損傷の患者さんについて相談を受けた際には、画像からステントグラフト内挿術（TEVAR）の緊急手術適応と判断し、相談があった病院に手術指導に向き、救命できたという例もありました。このように、速やかに専門医が画像診断を確認することで、手術を受入れる側の準備のほか、患者さんの負担軽減という点においてもメリットがあります。

術後の病診連携



画像ビューアのイメージ

手術・退院した患者さんはクリニックで管理してもらうこととなりますが、定期的な検査は当院で行います。MMWINに参加している医療機関に戻られる患者さんにはMMWINに加入してもらい、紹介状には「MMWIN登録しました」と記入しています。そうすることで、当院で撮影したCT画像やレポートなどはMMWINを介し、いつでも見てもらえるようにしています。逆にクリニックで検査した採血データなどは患者受入れ時に参考にしたいですね。

今後について

実際にMMWINを使い始めてから、救急時の活用でかなり役立っています。現在はみやぎ県南中核病院、石巻赤十字病院、気仙沼市立病院、大崎市民病院、栗原市立栗原中央病院などの地域基幹病院との連携が中心です。県内では心臓血管外科医がいる病院や、手術をできる病院は限られますので、この運用であれば患者さんがどの地域で発生してもある程度対応でき、相手方病院と綿密な連絡を取り、治療に関与できます。そのため、連携先をもっと他の病院にも広げていけたらと思っています。

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】office@mmwin.or.jp

『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。

